

セーシェル共和国

【国名】

- マヘ (Mahe) 島（首都が所在する最大の島）及び近隣島が 1756 年に仏領として宣言された際、当時の仏蔵相セシェル (Seychelles) の名前に因んでセシェルと命名。1814 年に仏領から英領に移行された際、現在の国名のセーシェル (Seychelles) になった。

【国旗】

- 現在の国旗は 1996 年に制定された。斜めに向いた帯は、未来に向かって動く新しい国の力を象徴。青は空と海、黄は太陽、赤は勤労意欲と国民の統一性、白は社会正義と調和、そして緑は豊かな大地と自然環境を表す。



【国土】

- アフリカ大陸から約 1,600km 東のインド洋に位置し、115の島からなる。面積は約 460 km²（ほぼ種子島と同じ）で、首都ビクトリアが所在するマヘ島が最大の島（面積は約 153 km²、ほぼ小豆島と同じ）。人口は約 10 万人。



【宗教・言語】

- 国民の約 90%がキリスト教。
- クレオール（ヨーロッパ人とアフリカ人の混血）が多数を占める。ルーツはフランス・英国等ヨーロッパ系、アフリカ系、インド系、中国系、ポリネシア系、アラブ系等様々で、混血が進んでいる。
- 公用語は英語、仏語、クレオール語。

【地上最後の楽園】

- セーシエルの島は花崗岩か珊瑚礁でできている。1/3 は無人島。ほぼ赤道直下に位置するため、一年を通して常夏の海で泳ぐことが可能。美しい海と自然、珍しい動植物の宝庫であり、地上最後の楽園とも呼ばれている。
- セーシエルを題材にする歌やロケ地となった映画も少なくなく、日本では松田聖子の「セイシエルの夕陽」やサザンオールスターズの「セイシエル ～海の聖者～」の歌が有名。



【世界遺産】

- 国土の約半分は自然保護区域となっており、ユニークな動物相と植物相をほこっている。アルダブラ環礁 (Aldabra Atoll) とヴァレド・メ溪谷自然保護区 (Vallée de Mai Nature Reserve) の2か所がユネスコの世界遺産 (自然遺産) として登録されている。
- アルダブラ環礁は、マヘ島から南西1,150kmに位置するアルダブラ群島に含まれている。アルダブラゾウガメをはじめ独特の動物相・植物相が保たれており、ゾウガメの生息地としては世界最大級で、15万頭が生息している。



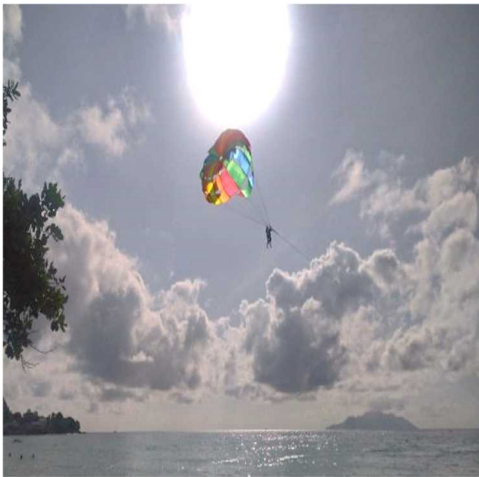
【双子ヤシ】

- 双子ヤシ（ココ・デ・メール、Coco de Mer）は、セーシェル特有の植物で、プララン島とその隣のキュリーズ島でのみ自生。プララン島では世界遺産のヴァレ・ド・メ渓谷自然保護区に自生。
- 2つのふくらみに分かれた不思議な実を結ぶ双子ヤシは、世界最大の種子で、大きなもので 60cm、20kg にもなる。双子ヤシは、発芽から果実をつけるまで 25 年もの年月を要するといわれる。
- お土産としても人気があり、土産店でも売られているが、セーシェル外に持ち出す場合には許可証が必要。



【観光】

- 観光は主要産業であり、美しい海とビーチでのリゾート生活、シュノーケリング、ダイビング等のマリン・スポーツを楽しむことができる。英国のケンブリッジ侯爵殿下（ウィリアム王子）と同妃殿下（キャサリン妃）もハネムーンのため訪れるなど、人気の観光地。
- ビクトリアのメインストリートにある時計台は、ロンドンのビッグベンを模したもの。



【料理】

- フランスやインドなどの様々な食文化の影響を受けたクレオール料理は、セーシェル近海で捕れる新鮮な魚介類に、ココナッツや香辛料で味をつけたもの。カレーはタコが入ったものもあり、日本のカレーとは違った味わいを楽しむことができる。



(了)